

第2回「講演と交流のひとつとき」(2007.10.18)

日中関係の持続性ある経済発展を目指して

-第二回講演と友好の集い-

2007年11月18日

大阪総領事館

講師：羅田廣総領事

本日の講演会を企画し実施いただいた関西日中平和友好会の皆様に感謝いたします。

今年は中日国交正常化35周年という意義ある年であり、様々な交流が実施されています。中日両国民間の総合的な交流は非常に重要であると考えています。我々の先輩が35年間に渡り交流に携わり、すばらしい成果を挙げています。我々が維持して次世代にバトンタッチをしていかなければならないと考えます。

【中日交流は足元から】

中日関係は世界に大きな影響を及ぼします。日本は世界第2位の経済大国であり、中国は巨大な人口を持つ経済発展途上国であるからです。日本の皆さんは中国と交流を進めるなかで、個人と知り合いになったり、マスコミなどの情報から中国を理解していることと思いますが、中国は民族も多く、中国人でさえ中国を正確に理解しているとはいえません。そんなわけで日本の方が中国を理解するためには、足元からの交流を深めることから始めるべきであり、大阪総領事館を利用していただければ良いと考えます。

【経済発展は中国にとって命です】

中国の改革・開放に関わる情報が多く流されています。中国の改革・開放は29年間に渡り実施されており、改革が速いので世界の注目を集めています。発展の秘密がどこにあるのかが問われています。中国は世界最大の発展途上国です。毎年約10%の経済成長を続けるので、世界に大きな影響を与えています。1978年から改革がスタートしました。鄧小平先生がその前の10年間の文革の教訓とゆがみを総括して、改革・開放路線をスタートさせました。当時10億人位いて、経済は疲弊していました。

経済発展は中国にとって命です。13億人。毎年1500万人の人口が増加するため、まだ経済基盤はもろいのです。発展したといっても依然未熟です。経済発展は中国にとって中心任務です。経済発展を中心にして国づくりを進める使命感が党・政府にあります。

中国は経済規模が世界第4位になりました。年平均9.6%の経済成長。一人当たり226ドルであったGDPが2100ドルに増加。食糧生産は3億トンから4.8億トンの増加。2億5千万人が貧困から脱却しました。しかしなお2200万人が辺境にいて貧困から脱却できていないため、一日も早く改善するため取り組み中です。三峡ダム建設による水力発電・新疆から上海までガスをパイプラインで搬送・揚子江の水を北京に運ぶ水路の建設など、生活の質を高めるための国家プロジェクトを次々に推進中です。経済発展がこれらのプロジェクトを可能にしました。

【経済成長は量から質へ考え方を転換】

もっともっと経済発展を持続させ、2000年比で2010年に一人当たりのGDPの倍増(3500ドル/人)を計画しています。達成は問題ないと考えられますが、そのためには量より質に考え方を転換させねばなりません。経済成長の考え方から経済発展の考え方へ、ひずみの是正と環境にやさしい経済発展を目

指さなければなりません。中国のこの考え方の転換は世界にとって重要なことであり、地球温暖化防止のための省エネと、廃棄物の処理の改善なくして、中国の持続的発展はできないと考えています。

【国際交流と中国の特色ある社会主義の道を進めます】

新中国は誕生してから58年しか経っていない若い国です。今でも模索しながら改革・開放路線を進めているし、これからも進めていかなければなりません。そのためには国際交流を進めることが重要です。中国は現在1兆7千万ドルの貿易額であり、GDPの50~60%を占めており、世界との関係なくして中国の発展はありません。日本も同じ状況にあり、経済関係はグローバル化しています。中国は更に国際交流を進めなければなりません。国際交流であげた利益は、中国国民の生活向上と世界への貢献（貧しい国への援助など）に使います。

また、中国経済の更なる発展のためには中国国内の古い制度などについて各種の改革をしなければなりません。世界には様々な国があり、基本的な理念など価値観は多様化しています。自分の価値観を世界との交流の中に持ち込まないこと、お互いプラスとなり発展できることを考えながら、国際経済交流することを考えています。中国は社会主義の初期段階にあり、まだまだ改革・開放を進めていかなければなりません。建国100年でも世界の中進国に過ぎないと考えています。一部アフガン・イラクなどを除いて、平和・発展・協力が現在の世界の共通の状況です。この機会を中国としては十分につかみ、様々な改革を進めます。その中で13億人いる国を安定させることが重要であり、発展のための条件であると考えます。中国にとっては中国の特色ある社会主義の道を歩まねばなりません。この基本姿勢は変わりません。日本と中国は異なっています。中国なりの民主政治の改革であり、法治国家に向かって改革を進めていかなければなりません。中国の現状に合わせて、着々と改革を進めつつあります。中国は共産党の指導の下で8つの政治会派があります。中国はしっかりした政権・政党を必要としています。

最近、中日関係は人的交流が盛んに行われています。文化・スポーツの人的交流が今年盛んに行われています。中国は世界の成功した事例を学び、どんどん取り入れています。それは科学技術に限りません。環境・エネルギー・資源問題についても中国は真剣に考えていて、他国に事例を学び、改善を実施しています。問題はありますが、一步一步進めています。効率の悪い工場を政策的にどんどんつぶして、効率化した近代的な工場をどんどん建設しています。義務的な制約がかかるのは困りますが、国内では改善を実施しています。

【中国の軍事力は防衛的なものです】

中日関係について今年は実りの多い、成果の多い年です。温家宝首相、賈慶林政協主席の二人の要人が日本を訪問しました。福田首相の年内の訪中計画も検討されています。胡錦濤総書記の訪日のための重要なステップです。軍事的交流も復活しました。中国の軍事予算の増大が日本で報道され、脅威と指摘されました。しかし中国の軍事力は防衛的なものであり、日中間には平和友好条約があります。脅威という人は中国の軍事力について理解が足りないか、悪意がある人です。中日間の信頼関係を作るためには軍事的交流が必要です。台湾については、現在は外部勢力が邪魔していて、台湾の統一ができていません。台湾が統一されるまで軍事的増強はやむを得ません。そうしないと台湾が独立してしまいます。台湾の陳総統は台湾の独立を目指しており、中国は警戒しています。

【戦略的互惠関係で中日経済関係の発展を】

今後の日中関係はますます良くなっていくと考えます。小泉首相の時代は反面教師であり、お互いにとってプラスになる、戦略的互惠関係を作らなければなりません。

今、戦略的互惠関係は明らかです。

平和共存・世代友好・平等互惠協力・共同发展です。

中国が経済発展に失敗したら、日本にとって脅威になると考えられます。例えば、中国からの経済難民が日本に押し寄せることが考えられます。

戦略的互惠関係を作るためには、まず、お互いの理解を深めることが大事です。中国は今年から輸出奨励政策を変えて、輸入政策を大いに奨励しています。日本にとって発展のチャンスです。この機会を逃さないこと、積極的に中国の経済発展政策に参加することが大事です。中国の貿易額のなかで、日本はEU、アメリカに次いで3番目に落ちています（前は1位でした。）。アメリカは口先では悪口を言っていますが、貿易がどんどん拡大しています。日本はEU・アメリカに比べて地理的にも文化的にも立地条件が有利です。それを活かさない手はありません。中国は日本の中国経済発展政策への参加拡大を大いに歓迎いたします。

ご清聴ありがとうございました。

